

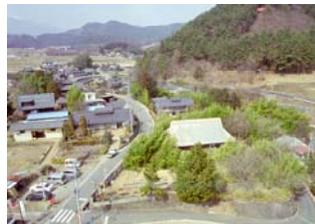
モデル事業名	田舎暮らし体験ハウス；古民家「なかや」を拠点に、津金地区の空き屋対策を中心とした活性化
活動団体名	特定非営利活動法人 文化資源活用協会
ホームページ	http:// (活動団体のHPのアドレス) www.tsugane.jp/meiji/
所属/ 担当者名	ご担当者氏名 (お問合せ先) 樋口
連絡先	0551-20-7100 E-mail : bunka@tsugane.jp
活動地域	山梨県北杜市須玉町津金地域

### ● 活動地域の概要

・津金地域は戸数約220戸、人口約500人が5地区の集落に暮らし43戸の空き屋を抱える限界集落間際の地区である。三方を山に囲まれ一方は深い谷間である孤立的な閉鎖集落で、標高約800Mの中山間地に位置しており、主産業は米作とリンゴの農業が唯一である。地域の中心には、かつて住民のシンボルであった津金学校から改修された「三代校舎ふれあいの里」がありレトロな佇まいと美しい集落風景は住民のみならず多くのファンに愛されている。



位置図



津金の集落風景



三代校舎ふれあいの里 (春)

### ● 活動地域の課題

- ・過去10年間に約20%の人口減少、48%の高齢化率、43戸の空き屋は更に増加する可能性大、この空き屋の活用が課題、空き屋は放置され荒廃感を増幅するとともにハクビシン・タヌキ等野生生物の住処となり、庭の果樹・放棄畑の桑の実は野生獣類の格好の餌場となり、繁殖に寄与しており、農作物の被害が拡大している。この被害は高齢化とともに住民の耕作意欲を失わせ農地の荒廃を更に拡大しており、過疎・高齢化に拍車をかけている
- ・過疎・高齢化によって深刻化する空き屋の増加・獣害の拡大の防止が最大の課題
- ・住民の強い愛着と来訪者に愛される津金の風景・三代校舎ふれあいの里の景観が失われつつありその保全が課題

### ● 活動の内容

(全体) NPOは「三代校舎ふれあいの里」の明治校舎；須玉歴史資料館 (県指定文化財) の指定管理者として、その運営に当たっており、1階を「明治カフェ」として2階を様々なギャラリーとして活用しており、多くのイベントを開催し、そのファンも徐々に増えている。この集客施設としての活用は平成20年度から利用客が約20～30%増加している。古民家「なかや」はこの須玉歴史資料館で案内し誘導するように務めている。

明治カフェはレトロな空間とセンスの良いメニューで地元や市内の住民の固定客が増えており、これまで津金内では集えなかった住民の溜まり場としての位置を占めつつある。「なかや」は、明治カフェに続く第2の溜まり場としても育成していくべく整備を行うことを予定している。

本事業により稼働が始まった空き屋活用；田舎暮らし体験ハウス古民家「なかや」も平成22年度から運用が始まり徐々にではあるが、様々な会合・イベントへの活用や宿泊滞在への活用が増えつつある。「なかや」を拠点にして津金地域内を廻る散策マップも本事業で作成して (「鏝絵マップ」「景観マップ」)、活用が始まっており市内の宿泊施設 (ホテル・ペンション等) からウオーキングでマップを頼りに津金散策に訪れる客も増えている。

#### (直近1年間の進捗など)

古民家「なかや」は訪れた人が、何らかの活動をして痕跡を残し、それを再訪時の記念にする；永遠に完成しない、未完の施設として維持することにしており、多くの場所が未完である。昨年度は一部の壁塗りや床磨きを行った。古民家「なかや」の活用は主に囲炉裏を活用する古民家体験が多く、様々な会合・イベント・宿泊体験等に徐々に活用が増えている。

これまで、須玉歴史資料館を拠点に実施してきたNPOの事業も「なかや」を拠点に変え実施することも増え、古民家の空間が適切に活用できるイベント等の活動を実施して大変に好評を得ている。

## ● 活動の成果

### ・全体

(活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

・古民家「なかや」の運用開始から約1年を経過して様々な面で活用が徐々にではあるが広がっている、地元の集会施設としての利用、NPOイベントへの地元民のインストラクターとしての参加等、また11月には、河口湖町が地元「御師の館」の再生の参考にと、関係者25人で視察に訪れる、といった類似施設整備に伴う参考のための視察等、他地域への波及効果も顕在化している。

「なかや」はオープンして日も浅いことから未だ顕在化した動きではないが、観光関係者から「なかや」の活用についての問い合わせや見学の際のガイドについて等の質問が寄せられており、今後実需になる可能性が開けつつある。



マクベス



囲炉裏でおやきづくり



獣害対策「柿採りてっか隊」の活動

### ・直近1年間の成果など

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

H22年の春、「なかや」オープニングには初めて多くの周辺住民が訪れ、NPOの活動を遠くから眺めていた人々が興味を持って訪れたことがわかり、その後も地元の会合に利用する等の動きも始まっている、夏には江戸系人形劇結城人形座第13代当主の田中純さんが主催する遊糸舎公演「マクベス」のコケラおとし公演が開催され、全国からファンが集まっている。田中純さんは東京都無形民俗文化財保持者で、昨年「なかや」の隣に移住してきた方であり、人形劇が古民家の空間に良くマッチするので今後とも利用したいと大変に好評であった。また市内のキャンプ場とのコラボでキャンプ場滞在客の希望者に「津金散策と古民家体験」ツアーを組み込み実施して、囲炉裏で地元の古老の話を聞きおやきを食べるイベントを2回実施した。秋にはフランス人が約2ヶ月間滞在し、『なかや』を拠点に周辺の観光を行い最後の「津金リンゴ祭り」にはNPOが出展したブースとともに活動し、リンゴ祭り交流会にも参加して楽しい異文化交流が実現した。古民家体験はホテル・旅館のようなサービスが全くないにも関わらず、外国人には大変興味を持って活用してもらえることがわかり、今後の展開に新たなメニューが作れる可能性が把握された。

また獣害対策「柿採りてっか隊」の活動も10～11月「須玉資料館」から「なかや」に拠点を換え、空き屋等の庭に放置された柿の木の柿を採取し「なかや」で皮むき・さわしを行い干し柿ジャム等に加工し、リンゴ祭り等で販売する活動を実施した。

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題 (活動を通して発見された課題等を記入)

北杜市内のみならず中山間地では多くの空き屋を抱えておりその活用は普遍的な課題であるが、所有者の様々な事情で活用には至らない状況が明確となった、空き屋の活用は多くの方の田舎に対する思いである「田舎の原風景」を残して活性化を図る重要な方策であることから、「なかや」の活動を更に活発化させるとともに、空き屋が利用可能な状態となるべく、今後ともこの活動を継続したい。

獣害対策は津金のような中山間地においては、過疎化対策の最重要課題になりつつあることから、獣類の餌となる可能性のある放置された果樹等の採取は、今後とも継続したい。

### ・展望 (今後の取組みや検討について記入)

「なかや」を中心に多くの人々を津金に呼び込み、地元との交流を図るイベント企画等を出来るだけ多く開催することを目指している。5月には「なかや」と「須玉歴史資料館」を結ぶ、通称「津金銀座」(約700M)通りでエコアートフェスティバルを開催する。また夏にはその道の中心にある、数年前に閉店した商店を活用してカフェを開く企画が、NPOを通して東京の若者によって準備されており、都会から多くの若者を呼び込むことになることから、その宿泊等の拠点として「なかや」の利用を促進する。

周辺地域の観光施設では古民家「なかや」での様々な体験を活動メニューとしてプログラム化する動きもあることからそれらとの連携を密にして実現を図ることとする。

## ● その他 (自由記述)